

放課後等デイサービス「キッズすてっぷかいぜ」評価結果

改善内容・改善目標

公表：令和 3 年 11月 1日

	チェック項目	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	活動の用途や児童の状況によってスペースを区切って使用する事もある。
	2 職員の配置数は適切であるか	基準を満たす配置は行っている。
	3 事業所の設備について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	玄関（入口）はバリアフリーとなっている。プレイルームと個室（相談室・事務所）の間には段差があるので注意を促している。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	職員同士で業務がスムーズに遂行できるよう話し合いを設けている。
	5 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	年に1度アンケート調査を実施して業務改善に努めている。
	6 この自己評価結果を、事業所の開放やホームページ等で公開しているか	事業所のホームページに掲載し公開している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	必要な時に外部からの講師を招き、評価をしてもらっている。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	社内研修や外部研修に参加するようにしている。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	支援計画書は定期的に見直しをしている。その際には保護者様や児童の状況を把握し、ニーズや課題を聞き取りながら新たな計画書を作成するようにしている。
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	保護者様に記入して頂いたアセスメントや相談支援事業所の情報提供、発達検査などの結果を参考にし、支援に繋げている。

適切な支援提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	職員同士で話し合いながら児童に合った支援内容を検討している。
	12	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	いろいろな事に取り組めるように職員間で話し合いをしながら新たな取り組みを検討している。また、児童に合った活動を検討し、提案、実行している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	時間的な部分を意識しながら活動内容を決めている。平日の流れを決めて取り組んでいる段階。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	児童に合わせて計画書の活動内容は記載するようにしている。個別活動が多い児童もいれば集団活動を多く取り入れている児童もいるような状況である。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	午前中など児童がいない時間に職員間で打ち合わせはしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	送迎終了後にその日の出来事の振り返りをするようにしている。また、伝達事項などもその時に確認している。
	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	日々の記録は個別で記入している。その記録をもとに支援計画書を作成している。
	18	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	年に2回程度はモニタリングを行うようにしている。その際に改善点などがあれば計画書を作成し直している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	生活動作の習得や余暇活動の支援など複数組み合わせる活動を行うよう努めている。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	基本的には児童発達支援管理責任者が参加するようにしているが、場合によっては現場の職員が参加する事もある。

関係機関や保護者との連携

21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	必要に応じて情報共有はしている。送迎時などに先生とお話しできる所はお話ししている。
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	現在は対象となる児童がいない。今後医療的ケアが必要な児童が利用される際は連絡体制を整えていく。
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	必要があれば情報共有するようにしている。
24	学校を卒業し、放課後デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	現時点では対象児がいないが、今後移行する児童が出てきた際は柔軟に対応していきたいと思う。
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けいるか	必要時には連携をして助言を頂いている。
26	放課後児童クラブや児童館との交流や障がいのない子どもと活動する機会があるか	現時点では交流をしていない。コロナが落ち着いてきたら交流できればと思う。
27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	子ども部会には参加できる職員を選抜して参加させてもらっている。
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	送迎時などに保護者様に会えた時は日々の様子や児童の課題などを話す事がある。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	相談があった際に対応はしているが、ペアレントトレーニングをしているとまでは言えない。
30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	利用契約時に説明を行い、わからない事があった際はその都度回答できるようにしている。

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	相談があった際は対応するようにしている。自分たちが持っている情報で役に立ちそうな事はお伝えさせてもらっている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	コロナの影響もあり、保護者会などを開催できていない。今後コロナが落ち着いてきたら開催したいと思っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	苦情があった際は迅速に対応できるように体制は整えている。事業所内で解決できる事案であれば職員間で話し合いを行い、適切な対応を心掛けている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	ブログやお便りなどで活動内容の報告などを行っている。
	35	個人情報に十分配慮しているか	1人1人が自覚を持ち、個人情報の取り扱いには細心の注意をしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	口頭で伝わりづらい場合は視覚支援を取り入れてスムーズに伝達できるよう配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	コロナの影響もあり、地域の方々との交流ができていない。
非常時等	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	マニュアルは作成しているが、それに沿った訓練はできていないので今後行っていきたいと思う。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	年に2回避難訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	市や県が開催する虐待研修を職員を選抜して受講できるようにしている。

の 対 応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定をし、子どもや保護者に事前に十分に説明し了承を得た上で、児童発達支援計画書に記載しているか	身体拘束を行わなければいけない児童がいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	アレルギーがある児童に関しては保護者様に指示を仰いで食べさせて良いかの確認を行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	ヒヤリハットの事例が起きた際はすぐに記録して職員間で情報共有を行っている。